



仕事には何を求めている？

さな：私は収入です。お金は生きていく上で一番必要だと思っています。

こたつ：収入はもちろん、僕にとっては残業の少なさも重要です。早く帰って家でゆっくりしたい～。

みき：私はやりがいです。今のところ結婚願望は特にないので、仕事を趣味にしたいな。自分のやりたいことを仕事にできれば、人生を楽しめそう。

ゆう：僕もやりがいです。どれだけお金が稼げたとしても、無理やり働くのはちょっと…。自分が成長できる場所で達成感を味わいたい！



もし結婚をするなら 姓はどうする？

こたつ：今の法律では難しいけれど、僕は夫婦別姓でも問題ないと考えています。もし結婚するならパートナーと姓についてしっかり話し合いたいし、相手が希望するなら事実婚でも構わないです。

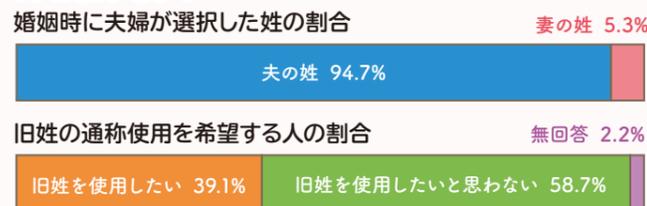
亮太!：僕は自分の姓をプレゼントしたいです。でも、もし相手に拒否されたら、相手の姓を僕が名乗ります。(笑)

ヤス：僕も姓に関しては夫婦別姓でもいいと思っていますが、その場合、子どもにどちらの姓を名乗らせるのかという問題が出てくると思います。法律でどちらの姓を名乗るのかきちんと規定してもらわないと夫婦別姓での子育ては難しいんじゃないかな。だから個人的には法律婚をしたいです。

あさひ：私はどちらでも良いです。でも、春から接客の仕事に就く予定なので、お客さんには今の自分の名前を覚えてもらいたいし、結婚で改姓するなら、仕事とプライベートで姓を使い分けたいかも。

さな：私は自分の姓があまり好きではないので本当は姓を変えたいけれど、手続きなど諸々のことを考えると大変で、面倒だなと思います。相手の姓を名乗る時に「うちの家を継いで行ってね」と、もし相手の両親から言われてしまったら、「姓を名乗ることと家を継ぐことは別じゃないの？」って感じると思います。

PICK UP /



参考：厚生労働省「人口動態統計」(令和4年)
内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和4年11月調査)

結婚についてはどう考えている？

ヤス：結婚は絶対したい！子どもも授かりたいです！

あさひ：私は良い出会いがあれば結婚したいけれど、結婚しなくても楽しい人生を送れるのかなとも思っています。

こたつ：正直、僕は結婚も子どももどちらでも良いかな。

ゆう：僕は子どもに恵まれた温かい生活を送ってみたい。結婚して二男一女の子どものがほしいです。

亮太!：僕は運命の人が現れたらその人と過ごしたいです。

りさ：私の場合、一人で生きるのは寂しいので、人生経験として一度は結婚してみたいです。結婚しないという選択肢はないですね。あとは、自分の姓が嫌いなので、できればパートナーの姓に変えたいな。



パートナーの働き方について どう考えている？

家計はどのようにしていきたい？

こたつ：僕は共働きなら家事は半々にしたいし、もし専業主婦(夫)を希望するパートナーであるなら、基本的には家事を引き受けてほしい。逆に相手が働いて、僕が専業主夫になっても良いです！

みき：可能ならば、お互い全て自己責任、別家計でやっていきたいです。パートナーが自分の貯金でやりくりできるのであれば無職でもいいけれど、金銭面で相手に頼られるのは嫌だな。

ヤス：生活費はお互いに出し合い、個人的な支出はそれぞれで、というのが僕のベスト。僕の家は6人家族で父は教員、母は専業主婦。父のように「僕の収入だけで何とかなるよ」と言えるくらい稼ぐのが理想。

さな：私は正規でも非正規でも良いので、お互い働いていることが理想です。もしパートナーが「働きたくない」と言ったら、その時点でお別れするかも…。

りさ：パートナーとの関係性によるけれど、私の場合は、大好きな人から「養ってほしい」と言われればオッケーするつもり。

亮太!：生活費は僕がなんとかしたいと思っています。足りなくなったら、僕がアルバイトなどを掛け持ちして稼ぐつもり。相手の希望を叶えてあげたいな～。



子どもをもつことについてどう考えている？

あさひ：私は同性の子どもを2人くらい欲しいな。自分の子ども時代にできなかった習い事や塾通いなどを何か一つでも良いので、小さい時からさせてあげたいと思っています。

亮太!：僕は男の子2人を授かることが理想で、スポーツ選手に育てたいなと思っています。子どもが出場する大会や試合へ応援に行きたい！

ヤス：子どもは欲しいですが、特に子どもの人数や性別の希望はないです。現実問題として、出産は女性に大きな負担がかかると思うので、子どもを産むかどうかという選択についてはパートナーの希望に合わせたいです。もしお互いが望むのであれば、2～3人くらいが理想。

りさ：私は結婚はしたいけれど、子どもは欲しくありません。女性の身体は妊娠すると、ホルモンバランスの影響などで心も身体も大きく変化すると思います。正直そういったことに耐えられる気がしないんです。もしパートナーから子どもを欲しいと言われたら困るな…。



少子化を解消するために必要な対策はなんだろう？

ゆう：高校、大学までの学費免除など、子どもを持つ世代への経済的な支援があれば、もっと育てやすい環境になるのかな…。

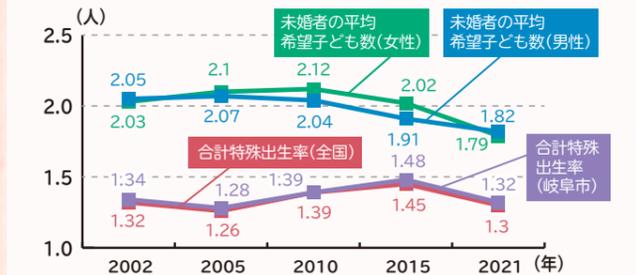
あさひ：これから子どもを産み育てる世代への金銭的な補助があると嬉しいです。自分の人生をどのようにでも選択できる時代だからこそ、人生設計の中に「子どもを持つという選択肢を持たない人」も増えて

きていると思います。「子どもを育てるお金が無いから子どもを持たないと考えている人」を産める状況にしてあげるだけでも、出生数は変わってくるんじゃないかな。

さな：子どもの教育に関わる経済支援も大事だと思いますが、今よりもっと柔軟な働き方改革や育児休暇の取得が促進されていくと良いなと思います。

PICK UP /

未婚者の平均希望子ども数と合計特殊出生率の比較



参考：国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)」(令和3年)
岐阜市「令和3年衛生年報(No.66)IV人口動態統計」(令和5年)

座談会を終えての感想

ゆう：様々なライフプランを聞くことができて、良い経験になりました。

あさひ：相手と価値観の擦り合わせをしっかりとっておかないと、自分の理想のライフプランは描けないと感じました。もし大切な相手ができた時には、よく話し合いたいと思います。

亮太!：同世代の人たちと将来について話をする機会はそれほど多くないので、貴重な時間でした。

ヤス：自分と価値観の違う人と結婚することになったとしてもどこかで折り合いをつけて、話し合いながら自分たちの家族の形を見つけていきたいです。

さな：普段、男女で話す機会が多くないので、結婚観や人生観について意見交換ができて勉強になりました。

りさ：結婚したいと考えている男性が多いことに驚きました。新しい気づきがたくさんあって良かったです。

こたつ：一人ひとり違う価値観を持っているということを再確認できました。もし将来パートナーと話し合う機会が訪れたら、今日の学びを活かしたいと思います。

みき：結婚するにしろしないにしろ、自分のやりたいことだけをやり通すのではなく、相手の声にしっかりと耳を傾けることが大事だと気づけました。

大野先生からの総評

従来とは異なり、多様な人生設計を打ち立てられる現代は、これまでの一般的な人生設計といったロールモデルが存在しなくなってきているのかもしれない。

これからの時代を牽引していく「Z世代」がどのようなライフデザインを描いているのか、座談会前は不安がありました。しかし、今回のディスカッションに立会い、これまでの家庭環境等により、各人異なった部分がありつつも、全体的には様々なツールから日々情報を収集し生活しており、想像以上にしっかりとした考えを持っていることを知ることができ、非常に有益でした。将来、描いていた人生図とは異なる道を歩むことになるかもしれませんが、みなさんが幸せな人生を営んで行ってくれればと思います。